

## 稲毛海浜公園自然観察会

### 虫と友達になろう！

藤田 隆（松戸市）

日時：2022年9月10日（土）10:00～12:00 天候：晴れ

参加者：25名（大人12名、子ども13名）

担当指導員：藤田・鈴木(と)・本多、管理事務所2名

数日前、天気予報は曇り、前日は晴天模様となり、当日は良すぎる天気、30℃に迫るほどの気温、熱中症が気になりました。

新型コロナ対策で、体温測定、手指消毒後 受付を済ませた子どもたちは、目の前をかすめていくウスバキトンボを追いかけるのに熱中していました。集合時間より前に到着した指導員は、付近の昆虫を採集し、(イチモンジセセリ、アカボシゴマダラ、サトクダマキモドキ、ヤマトシジミ、ウスバキトンボ、アジアイトトンボ)をプラカップに収めて準備 OK と落ち着いていました。風が強く、子どもたちも取りにくいのではないかと思ったからです。

子どもたちは小学校低学年と幼児が主でした。公園事務所の方と自然観察指導員が挨拶し、スズメバチに出会った時の注意事項を説明して、2班に分かれて出発しました。

公園緑地事務所と稲毛記念館の間の道ではジョロウグモがアミを張っていました。頭が下に向いていること。アミが3枚。ねばつくのは横糸、縦糸は粘りがないことを説明しました。

次にマテバシイの林にきました。ドングリができるまでに1年半かかること、今年受精したドングリの赤ちゃんはまだ小さいことなど本物と見比べながら説明しました。原っぱではオオバコのスジだし競争、オオバコずもうを親子で楽しめますよ。と薦めました。

マテバシイの林ではダンゴムシ競争を子どもたちに「やってみましょう」と仕掛けました。この仕掛けは意外に年長から小学校低学年の子たちが面白がって何度も競争していました。

広場に入り虫取りの時間にしました。30分を取りましたが、年少の子たちが疲れた様子だったので、虫取りは早々に切り上げ、プラカップに収められた昆虫を確認して、キタキチョウ、アオスジアゲハ、シオカラトンボ、ショウリョウバッタをみんなに見せ合いました。

そのあと、昆虫の顔写真をみて「誰だかわかるかな」のクイズをしました。ショウリョウバッタ、コオロギ、アブラゼミ、ナミアゲハの顔写真を見せ、答えてもらいました。これは子どもたちの興味を引いたようです。結構盛り上がりました。そして捕まえた虫たちを放して終了しました。

昨年参加して、トンボが捕獲できなかったのに、今年はウスバキトンボが捕まえられた。いろいろな昆虫と触れ合えてよかったと、参加者からの感想でした。



マテバシイの芽出しを観察



採集した虫たちを紹介